

事業所名

多機能型児童発達支援ルーム らぼる
(児童発達支援・放課後等デイサービス)

支援プログラム

作成日

令和7年

3月

1日

法人（事業所）理念	法人理念：つやつや・生き生き・楽しく・楽に 事業所理念：重度の障害があっても、遊びを通じて世界を探索する。また、自分で世界へ働きかけられるよう、心身のベースづくりを目指す。								
支援方針	日常生活の中の一資源として、障害や医療的管理のみに注力するのではなく、「ここだからできる体験」を提供する。看護師を主として適切な体調管理がなされた上で、療法士が中心となって世界へ働きかける準備を整え、保育士・児童指導員が提供する遊びを通じて世界を広げていく。								
営業時間	(月)～(金)	8時	30分	から	17時	30分	まで	送迎実施の有無	あり
サービス提供時間	(月)～(金)	10時	0	から	16時	0	まで		
支 援 内 容									
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・来所時の検温、SP02計測等のバイタルチェックを行う。 ・看護師による客観的評価を行いながら、表情・声色など日々の体調の確認を実施する。 ・利用児毎に食事・排泄・睡眠等の状態や薬剤情報の確認を保護者から行う。必要に応じて受診同行を行い医療機関との連携を実施する。 ・利用児の状態に応じて言語聴覚士により摂食アドバイスを行う。 							
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ・スイングやクッション、キューブ器具を使用し、ダイナミックな動きの提供や家庭では行い難い動きや体の使い方の経験を増やす。 ・児童指導員、保育士や療法士が運動機能や感覚の評価を実施しながら遊びを提供する。 							
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ・小集団での活動の中で、自己主張の場や待つことを経験し、ルールに触れる機会を増やす。 ・経験を増やす中で、好き嫌いを知り、また好きなことを経験し楽しいと思える機会を増やす。 ・年齢相応の経験ができるよう、提供方法を工夫して活動を行う。 							
	言語コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・言語を使用しでのコミュニケーションのみならず、利用児に合わせたコミュニケーション方法を検討し実際に行ってみる。 ・小集団や個別の関わりの中で、他者との関りの時間を増やす。 							
	人間関係社会性	<ul style="list-style-type: none"> ・通所で利用することで、自宅や家庭から出て他者と関わりながら、自分の世界を広げていけるようにする。 ・他者との信頼関係を築く。 							
家族支援	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てに関する不安や悩みを聞いたり、兄弟児と保護者の時間や保護者の休息を取れるよう時間調整等行う。 				移行支援	<ul style="list-style-type: none"> ・児のライフステージの変更に伴い、その時々で必要と思われる支援や事業所の提案を行い、児にとって最善、最適と思われる支援の提供を行う。 			
地域支援・地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時に学校の先生と話すことでタイムリーな情報共有に努める。 ・受診同行や関係機関との会議を適宜行い、児を取り巻く環境の把握、支援の方向性の共有する。 				職員の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・社内研修会・事例検討会・他事業所との交流による学び、外部研修への参加を実施する。 			
主な行事等	<ul style="list-style-type: none"> ・行事として明確な位置付けはないが、季節毎の製作を行っている。 ・年二回の防災訓練を実施しており、利用時と重なった場合には参加を促している。 ・地域の際時には積極的に参加する。 								